

# ひらくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '85 10月号

秋期特別展

## 手紙の世界

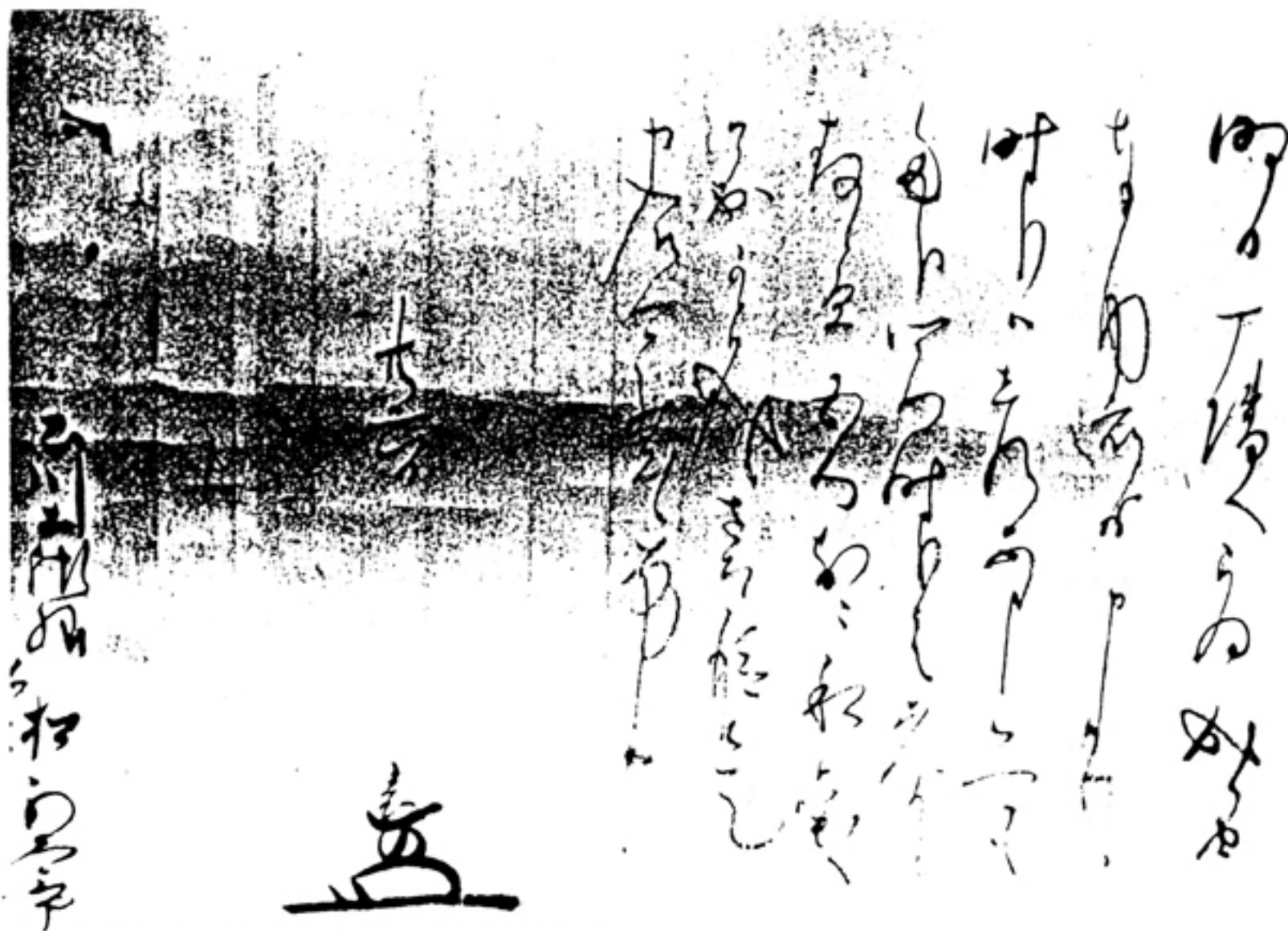


写真 池田光政書状

私たちは、思いを人に伝える手段として、古くから手紙を利用してきました。現在、さまざまな人々の手になる手紙が残され、伝えられています。そうした物の中から、北条氏、毛利氏、豊臣氏等の戦国武将の手紙、沢庵、宝空等高僧の手紙、本

居、荻生等の儒、国学者の手紙、遠州、織部、松花堂等の茶人の手紙、觀彦、大觀、玉堂等の画家の手紙、龍馬、福沢、西郷、アーネスト・サトウ等、維新时期に活躍した人々の手紙など、興味深い手紙を選び「手紙の世界」展を企画いたしました。

# 10月の行事

1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水
31	木

星を見る会  
プラネタリウム 古文書講読会  
土曜観察会  
自然観察会  
地層観察会  
(休館日)  
(休館日)  
石仏を調べる会  
石仏を調べる会  
(休館日)  
デッサン教室  
デッサン教室  
古文書講読会  
土曜観察会 天体観察会  
地層観察会  
(休館日)  
石仏を調べる会  
石仏を調べる会  
(休館日)

## ★☆行事案内☆★

### ●体験学習「巣箱を作ろう」

シジュウカラ用の巣箱を作り、午後、高麗山の杉林にかけに行きます。

日時 11月24日(日) 9時~16時

場所 博物館科学教室、高麗山

申込み 11月10日までに、往復はがきで博物館までお申込み下さい。多数の場合には抽せんで20人までとさせていただきます。

### ●自然観察会(地質)

市内土屋で亜炭層中の植物化石やローム層について観察します。

日時 11月10日(日) 9時~16時

場所 平塚市斎藤～矢沢

申込み 10月30日までに、往復はがきで博物館までお申込み下さい。多数の場合には抽せんで30人までとさせていただきます。

### 寄贈品コーナーの展示

### 道具の歴史

五領ヶ台貝塚、上ノ入B遺跡、中原上宿遺跡、豊田本郷遺跡から出土した資料や、市民の皆さんから寄贈していただいた民俗資料の中から、石製品、鉄製品を中心に展示します。身のまわりの諸道具の歴史と変遷の一端を眺めましょう。そして生活の移り変わりについて考えてみましょう。

実物の外、写真パネルなども展示します。

(10月30日まで)



# スカラネタリッシュ

10月の投影テーマ ☆☆☆

## いん石落下

昨年の7月2日と8月23日に、青森県と宮城県に相ついで隕石が落下しました。日本では26年ぶりの出来事でした。

この隕石の話題を中心に、隕石はどのようにして地上に落下するのか、いろいろな隕石、今までに落下した隕石についてお話をします。



投 影 日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土曜日	朝9時より 第1回 第2回	14:00 15:30	
	朝9時より 第1回 第2回	11:00 14:00	
火曜日		学校専用	
		学校・団体専用	

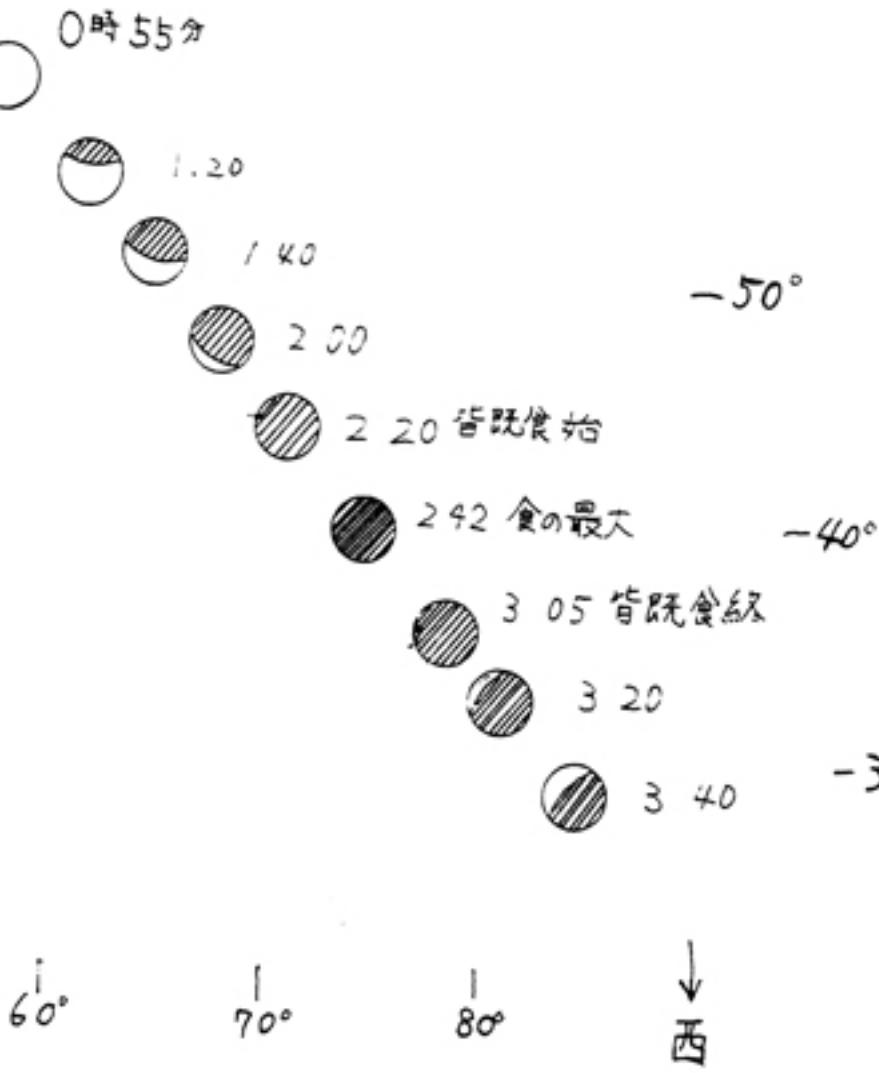
●観覧料 1人 100円

●所要時間 1回 45分

●定員 128人

●団体申込み 20人以上で団体扱いとなり、団体専用日にご利用いただけます。くわしくは博物館受付にお問い合わせください。

## ★月食を見よう



10月28日の夕方、ほとんどまんまるの月が東から昇ります。この月は夜半を過ぎた29日0時55分から北側近くから欠け始め、午前2時20分に今年2度目の皆既(かいき)月食になります。

月は太陽の光を受けて光っています。これが地球の裏側に回りこみ、地球の影に入ってしまうのが月食です。一部が欠けて見えく時を部分月食、全体が影に入る場合を皆既月食と呼びます。

月と地球の距離は約38万キロ、地球の直径は約1万3千キロです。(月はその3分の1くらい)私たちはいつも地球に影を映していますが、地球の大きな影が月を包んでしまうのが、今回の月食です。

ところで、ふつう皆既月食の時には、地球大気の屈折と散乱によって赤い光が月に映り、赤黒い月が見られるのですが、ここ数年、暗い月食が続いている。今回はどうなるでしょう。皆既の終わりは同日午前3時5分になります。

# 来た！ハレー彗星

## ハレー彗星を構成するもの

長い髪をなびかせて天空を飛ぶように見える彗星の奇妙な姿は、大昔から人々の目をひいてきました。彗星とは、中国語ではうき星の意味で図1のような種類があると中国人人は分類しています。西洋では、コメットといいますが、これはギリシャ語のアストリア・コメーテス（長い髪をなびかせた星）から来ていると言われています。彗星といえば長い髪をなびかせたような姿で飛んでいるもの、というイメージが強いのもわかる気がしますが、本当はいつもあんな長い尾を引いているのではなく、太陽に近い時だけできるものなのです。

彗星というものはもともとは、大変小さな天体です。ふつう、彗星の核と呼ばれていますが、直径1~10km、重さで言うと10億~1光トン程度です。ちょっとした山一つ分です。大きいなと思われるかも知れませんが、宇宙にうかんでいる姿を地球から太陽くらい離れた位置から見ようすると、直径10kmの核でも角度でたったの0.0001度、世界最大の望遠鏡でも点にしか見えないのです。そのため、核がどのような構造になっているのか、はっきりしませんが、大体図2の

図2 彗星核の構造

汚れた雪だるま 中に岩石の核がある



のような姿だろうと言われています。主に、氷とチリからなる雪ダルマ状で、中に岩のかたまりがあるとかチリと氷だけだ、などいくつかの説が出されています。

ハレー彗星も中心には雪ダルマのような核があります。太陽から遠く離れている時は冷たくこおりついた天体なのです。それが、だんだん太陽に近づくにつれて太陽の光と熱であっためられ、太

図1 中国（漢代）の彗星の分類図

—馬王堆3号墓出土「天文氣象雜占」の一部—



陽から約4億5千万kmになると蒸発をはじめます。いっしょに飛び出したチリといっしょに核のまわりをとりまいて雲をつくるようになります。この雲をコマと言います。コマの大きさは、彗星が太陽から地球と同じ距離にある時で半径10万~100万kmになります。

なおも彗星が太陽に近づき、約2億5千万kmまでくると、太陽からふき出す太陽風と呼ぶプラズマの風によって尾が出来ます。この尾もプラズマと呼ぶ電離した原子、電子が共存する一種のガスです。

彗星の核からはガスといっしょにチリがたくさん飛び出して来ますが、太陽の放射圧（光の圧力）で少しずつしきになびいて、チリの尾を形造ります。こうして図3のような一人前の彗星の姿になります。

ハレー彗星も1910年に近づいた時には長さ5.000万kmの尾がありました。

ハレー彗星は1982年10月に近づきつつある姿を発見されましたが、そのころは地球から16億kmも離れ、核だけの姿でした。

今、ハレー彗星はコマが形造られていますし、そろそろ短い尾が出来てきているかもしれません。10月中旬で太陽から約3億kmまで近づいて来ます。

図3 彗星のかたちを構成するもの

